

まもなく2万5000号

1928-2020



ニュースの明日は、 あなたが変える。

赤旗記者「特別募集」NOW

「しんぶん赤旗」は5日後の21日、通巻2万5000号を迎えます。1928年2月1日の創刊以来、日本共産党の機関紙というだけでなく、平和と社会進歩を願う人々の共同の新聞として歴史を刻んできました。いまま、これからも、そういう新聞をつくり続けたい。赤旗編集局はいま、「赤旗」づくりの担い手、編集局で働く仲間を大募集中です。「ニュースの明日は、あなたが変わる。」—記者たちの思いを、紹介します。



日曜版編集部14年入局
笹川 神由

政治変わる現場目撃

政治が変わる現場を、自分の目で見ることはできる。それが私たちの仕事の醍醐味です。その現場を初めて目にしたのは、記者になって1年半のこと。いわゆる「大阪都」構想をめぐって住民投票がありました。ヒラ配布やCMが無制限の住民投票は史上初。悪政を進める政治に対して市民が自発的に立ち上がり出す姿を関西総局で取材しました。結果は反対多数で否決。市民

が権力に「ノー」を突きつけた瞬間は、今でも忘れられません。首相主催の「桜を見る会」疑惑では、安倍晋三首相の地元で首相の後援会員らを取材しました。大手メディアがこの疑惑を報じたのは、「赤旗」が報じてから1カ月後でした。読者が日々感じる「これはどうしてこうなの？」という疑問を、市民目線で取材し、記事にする。やりがいを感じられる仕事です。

読者魅かせる写真撮る



写真部17年入局
白石 光

私が赤旗記者を目指したのは、率直にいうと、幼い頃から「動物を撮るカメラマンになりたい」という夢をかなえたいためでした。これまで何度か動物の話題を扱いました。たとえばお正月の企画で、お年寄りや入院患者の心身のケアをする「セラビードッグ」や、環境悪化で激減している「カヤネズミ」という日本で一番小さなネズミを取り上げた記事もあります。カヤネズミの取材では、京都まで赴き、河原で巣を撮影しました。

紙面に載る写真は動物だけでなく、選挙や災害、風景や集会などさまざまあります。日本全国を駆け回ります。1日でも何カ所もの撮影をこなすこともあります。大変ですが、とても楽しい、やりがいのある仕事だと思っています。

赤旗記者としてやっていくには「やってみたい」という気持ちが大前提だと思います。私は、これからも自分の夢・目標のために頑張りたいです。「赤旗」を読んでくださった方を魅せることのできる写真を撮るために。



政治部18年入局
中野 侃

タブーなく真実追求

赤旗記者になって3年目。現在は政治部に所属し、日々めまぐるしく変化する情勢を必死に追いかけています。安倍政権のウソや矛盾がいたる所で噴出し、国民の政治不信は強まるばかり。そんな中で、信頼できる政治への転換の道を示すことは、赤旗記者の大きな仕事だと思っています。自分の書く記事一つひとつが政治や社会を変える一端を担っている。そう実感できる瞬間が、何よりのやりがいです。

政治部の記者をしていて感じるのは、自分が政治の現場の最前線にいることです。その時々政治課題に正面から向き合い国会にも足を運び取材をする。さまざまな領域の専門家、識者に話を聞くことができる。薬なことばかりではありませんが、毎日刺激的な体験の連続です。大学時代はメディア論を専攻し、真に社会的価値のある情報とは何かを学んできました。時の政権に対してもタブーなく切り込み、真実を追求することができ、「赤旗」の最大の魅力です。

あなたも一緒に「しんぶん赤旗」つくりませんか



編集局はこんな感じです

特設ページ はこちらから



小さな声でも

どんなに小さい声でも紙面に載せていく

日本共産党のホームページからご覧いただけます。詳しい応募要項や現場からの手記を掲載。記者の意気込みや編集局の雰囲気伝える動画(写真)も順次、配信していきます。紹介リーフレットのPDFもこちらでダウンロードできます。
<https://www.jcp.or.jp/akahata/recruit/>

リーフレットできました

「特別募集」に合わせて、赤旗編集局を丸ごと紹介するリーフレットができました。「いま赤旗は どんな新聞？」のページでは①国民の苦難軽減のために、②権力を監視する、③野党と共闘を進め、市民と連帯のネットワーク、④ジェンダー平等の視点を貫く、⑤未来を語り展望が見える、の五つの角度から「しんぶん赤旗」の特徴を簡潔に説明しています。赤旗編集局の22の部すべてを紹介するコーナーもあり、また「働き方Q&A」では「給与や一時金は」「休みはどうなっているの」「福利厚生は」「体や心の健康支援は」といった働くうえで知りたい情報を掲載しています。



リーフレットは日本共産党の都道府県委員会に近日中に送付しますのでお問い合わせください。または、Hata-Bosyu@akahata.comにご連絡いただければ、お送りいたします。

社会変革と真のジャーナリズムのために



赤旗編集局長 小木曾陽司

青年学生党员民青の仲間のみならず、いま、「しんぶん赤旗」への注目と期待は、コロナ禍から国民の命と暮らしを守るという点でも、安倍政権の疑惑の徹底追及という点でも、コロナ危機を乗り越え、新しい日本と世界の展望を示すという点でも、かつてなく高まっています。「赤旗」の安定的な発行を続け、将来にわたって、その責任を果たしていくためには、一人でも多くの方に購読をいただくとともに、「赤旗」づくりの担い手記者を増やすことがどうしても必要になっていきます。

みなさん、社会変革と真のジャーナリズムのため、「赤旗」を一緒につくりませんか。「人の役に立ちたい」「社会を変えたい」「自分をもっとみがかきたい」—あなたのそんな思いを「赤旗」に託してみませんか。

「赤旗」の仕事は多彩です。政治、経済、社会、国際の日々の動きを追うニュース部門、文化、くらし、テレビ、ラジオなどの企画部門。それぞれから出稿された記事は、校閲のチェックを経て、整理部門でレイアウトされ、見出しをつけて紙面に仕上げられます。事務の部門を含めて、どの部門、工程が一つ欠けても新聞はできません。みんなで力をあわせてつくるのが「しんぶん赤旗」です。

みなさん
コロナ危機を乗り越え、新しい日本と世界をつくる—このわくわくするような共同の事業に、日本共産党員として、「しんぶん赤旗」の記者として参加してみませんか。赤旗編集局は、みなさんの応募を心からお待ちしております。

(「特別募集」開始にあたって)から抜粋)

テレビ・ラジオ 番組表 67面

編集局に一度来てみませんか
日本共産党本部・赤旗編集局内を案内し、あなたの疑問に記者が答えます。
■申込先 赤旗編集委員会
メール Hata-Bosyu@akahata.com

名前、所属党支部または民青班、学生は学校名・学年、電話番号、参加希望日を明記
■問い合わせ 党本部代表 03(3403)6111で赤旗編集委員会・見学会担当へ

「赤旗見学会」好評開催中
毎週土曜日開催。午前11時20分に党本部集合。午後3時すぎに終了予定(他の曜日も要相談)

